



日本紀歌之解

上

リ 5
5398
1



門リ5
番 5398
卷 1

殖柳の

柳

あはれいしきものあはれものそのあはれいしきもの

殖柳の

さし成しきものあはれもの今世の婦利にさし成し
たまやもはあはれものあはれものあはれもの
あはれものあはれものあはれものあはれもの
あはれものあはれものあはれものあはれもの
あはれものあはれものあはれものあはれもの
あはれものあはれものあはれものあはれもの

昭和十年
六月六日
東京

つゝまゝにたゞしに吹く五十槻のそよ
大くちぢみのむ月中はるくよぢる
ほあまのこゝろ秋風の吹くはるかに
乃いほあまのこゝろ秋風の吹くはるかに
つゝまゝにたゞしに吹く五十槻のそよ
大くちぢみのむ月中はるくよぢる
ほあまのこゝろ秋風の吹くはるかに
乃いほあまのこゝろ秋風の吹くはるかに

天のこゝろにたゞしに吹く五十槻のそよ
大くちぢみのむ月中はるくよぢる
ほあまのこゝろ秋風の吹くはるかに
乃いほあまのこゝろ秋風の吹くはるかに
つゝまゝにたゞしに吹く五十槻のそよ
大くちぢみのむ月中はるくよぢる
ほあまのこゝろ秋風の吹くはるかに
乃いほあまのこゝろ秋風の吹くはるかに

夜句茂多菟
 彌組立也
 都米佐須伊豆毛多
 初作須

日本紀歌解規乃落葉上卷

皇大神宮權禰宮從四位下荒木田神主久老謹撰

第一卷神代上一首

是時素盞鳴尊自天而降到出雲國簸

之川上畧乃言曰吾心清々之於彼處

建宮或曰時武素盞鳴尊詞之曰

賀宮之時自其地雲立騰亦作御歌其歌

夜句茂多菟
彌組立也
都米佐須伊豆毛多
初作須

○日本紀歌解上

〇一

是時素盞鳴尊自天而降到出雲國簸
 之川上畧乃言曰吾心清々之於彼處
 建宮或曰時武素盞鳴尊詞之曰
 賀宮之時自其地雲立騰亦作御歌其歌

八雲刺出雲子等... 或曰... 素盞鳴尊... 決定... 或曰... 古事記の傳... 八雲刺出雲子等... 或曰... 素盞鳴尊... 決定... 或曰... 古事記の傳...

八雲刺出雲子等... 又續日本紀... 伊弉毛夜霸餓岐... 出雲八重垣也... 菟磨晤味... 伊弉毛夜霸餓岐... 出雲八重垣也... 菟磨晤味...

古事記... 都麻基... 八雲刺出雲子等... 或曰... 素盞鳴尊... 決定... 或曰... 古事記の傳...

爾... 妻隱也... 夜霸餓枳菟俱盧... 贈迺夜霸餓岐迺... 第一卷神代下五首... 一書曰天照大神勅天稚彦曰畧時味...

相高彦根神。光儀華艷映于二丘二谷
 之間。故喪會者歌之曰。或曰。味耜高彦
 根神之妹下照媛欲令衆人知映丘谷
 者。是味耜高彦根神故歌之曰。
 古事記云。故
 阿治志貴高日

子根神者。怒而飛去之時。其伊呂妹高比賣命。高比賣命ハ、下照比賣命。思願其名故歌曰云云。

阿妹奈屢夜。天在哉也。万葉卷三。天有佐々羅能小野卷七。天在
 樂之小野。と云々。天有一棚橋。卷十六。天尔有哉神
 乙登多奈婆多迺也。音棚機也。乙登也。

愛もむこころ流はるる。神祇の波動の下に都賣の前を脱せり。中
 八尋殿而手玉玲瓏織之少女者。是誰之女子云云。万葉卷十六。足玉
 手玉毛由良爾織旗手公之御衣。爾織將堪可聞と云云。はたかへ素の一
 云を加つとも。一句八言と云。宣長が祝ふみどりて七言の句と。八言
 五言の句と。六言の句と。七言の句と。いへば。女部以下。端々。と云
 所。有也。まらぐん。と云。頭。と云。と云。
 世流ハ。志多流ハ。味耜流ハ。と云。万葉
 三卷のふ記。ふあ。いへて。万葉卷十六。吾于奈雅流珠之七條卷十三。纒
 有領巾文光蟹手二卷流玉毛由良羅爾と云。松葉中よむゆ。と云。
 多磨迺彌素磨屢迺。王之真統乃也。す。統乃也。和名
 抄。昂星と須八流とある。

形似... 阿奈陀

多麻能美... 阿可

磨波夜... 阿可

彌多爾... 輔施

和多羅須... 阿旌素企

多伽避顧祢... 阿旌素企

又歌之曰

阿磨佐箇屢... 阿旌素企

菟謎迺... 阿旌素企

阿磨佐箇屢... 菟謎迺... 阿旌素企... 以和多羅素西渡... 伊渡... 爲類

○日本紀歌解上

○日

延喜式祝詞、依吉葉
と云ふもの、御言、依
吉葉、與佐斯といふ也

羽川之左丹重、大橋之上、從直獨伊渡為兒者、云々、西渡の門、河門
水門の門也、万葉卷十、角嶋之迫門、乃雅海藻者、云々、又、依吉葉、男女
の相婚、云々、河と依、云々、比、云々、万葉、云々、依、云々、以嗣
箇播箇柁輔智、石河片淵也、石河、河國、石河、云々、箇、云々、柁、云々、
輔、云々、智、云々、
阿彌播利和柁、片淵也、云々、
妹盧豫嗣爾、細張且也、細、魚を捕、云々、河、云々、豫、云々、利、云々、
箇柁輔智爾、女呂依爾也、呂、助語、云々、万葉卷十四、加奈思吉兒、呂我卷、云々、
三吉、鴨、中、
四、庭、云々、河、云々、都、麻、余、斯、許、西、稱、云々、
妻、社、妻、依、來、西、稱、云々、

豫嗣豫利據禰、依寄、來、稱、也、云々、
以箇播箇柁輔智、西、稱、云々、
此兩首歌辭、今號夷曲、是、後、樂、所、稱、也、
夷、曲、云々、
名、也、云々、

皇孫因幸豐吾田津姬則一夜而有身
畧吾田津姬恨皇孫不與共言皇孫憂
之乃為歌之曰。

憶企都茂播瀧津藻也下播助辭也

母邊者雖依也ハ海邊者雖依也ハ海

浪之共彼依此綠玉藻成依寐之妹乎云云

伊麻往の役人今ハ
後ハ
伊麻往の役人今ハ
後ハ

佐禰耐據茂佐麻味毛也佐ハ係

怒外茂卷不與哉卷也

都智耐理譽濱津千鳥卷也

須更有鹽土光翁來乃作無目堅間小

夜浪久波陀布禮
云云

内施機欲因請饗以作難願知此詐善
ニオミテオキテ
 為之備天皇即遣道臣命察其逆狀時
ナシ玉ヘ
 道臣命審知有賊害之心而大怒誥嘖
 之曰虜爾所造屋尔自居之因案劔彎
ラオレ
 弓逼令催入兄猾獲罪於天更無所辭
川ヲヒテ
 乃自蹈機而壓死時陳其屍而斬之流
オノレ
 血没踝故號其地曰菟田血原已而身
イル
 猾大設牛酒以勞饗皇師焉天皇以其

酒寔斑賜軍卒乃為御謠之曰

于儂能多伽機珥
ウダ
タ
カ
キ
ニ
ウダ
ノ
タ
カ
キ
ニ
ウダ
ノ
タ
カ
キ
ニ

城ハ古事記仁徳條ノ美母能曾能多迦紀那流頭宗紀ノ於ノ農跡能皆能施
奇紀難屢方葉卷三ノみ
厚地也
春儲
田
菟田
血原
已
身
猾
大
設
牛
酒
以
勞
饗
皇
師
焉
天
皇
以
其

伽機も田垣の魚し天照大神の神在田と天垣とのひつら神代紀
見えまを卷十三二垣津田池の圯は百不足五十規が枝云云とある池の
境即臨津田の垣なるべし水由流む田垣を田代廻ると築く境やあ
す流るる時置置人といひ又接し或は畔をりや今始あゆ
をの圃カカレたれまの畔さかくて成初句七言一句なると宣長が詠み三言
四言とも二句とせよ更し初句と七言のいへるを他も初めしるるを
ゆもまたり初句と三言と二句と四言をももまた何れいふるを
わづらふ今按ふ是の決ま四言五言の初句と一句脱せしむるも
そのよし夜發空能もるるや此ハ万葉卷七の
山跡之宇陀乃真赤土左丹着者云云と見えしれ也 辭藝和奈破
盧 離羅設也志也ハ和名抄云玉篇云鷺野鳥也揚氏漢語抄云之木一云田鳥
のともこのもまよひあふのかゆまの志づる山は波敷る也その書
へ細をかくしるる時と詠み此の句と舞とのゆるく身猶が大設半酒と
あふるゆれ此の漢文のゆるくしるる酒字も時と舞とのゆるくあ
るゆれもやがて時と舞とあふるゆるくしるるゆれも

和餓末菟夜

吾待哉也吾も兄猶が吾もはや下は志藝への
船辭又接し彌常紀於岐每幕與とある在常記

八意岐末母夜とある也

辭藝破佐夜羅孺

離者不刺依也

万葉卷五も毛々可斯母由可奴麻都良達家布由伎互阿須波吉奈武遠奈尔可
佐夜禮苗何差依らるるえゆるゆるの同卷も周弊母奈々苦久阿礼
波出波之利伊奈々等思騰許良尔佐夜利奴もも刺依るる

伊珠區波辭

後威細也初は八音也打日刺と打大都

區旒羅佐夜離

鯨魚刺依也

官軍の撃つる彼小針の破るるを舞の時を刺るるをかくるる也

再按伊豆區波辭
伊後可新く同
此爾のくひ違ひおれ
各々のやくみ成れ
了復根の三とす

と師の助談を加へし下の條を去りしと仰る辭を其の内の宣長
ハ許多長祢の一言を以て信じて許多を去りしと云ふも、
論その餘の條中よりおぼく見えし其の意を以てし、
代紀の竹刀此云阿平比衣よりなり、和名抄も、日本紀私記を引く、安遠比衣
とありぬ。延の假字ぬべしありし、吾郷の俚言より人を奴と切るとい
ちもといひ、佛を切るといふも、是等比衣の轉語なり、延と也ハ、
何れに、絶たぬも、おぼくは、いづれも、比延の假字、
宣長が聶の説ハ、信が、
宇破奈利餓、後妻之也、和名抄云、後妻、宇波奈利と名
伊智佐外幾、伊智佐外幾、和名抄云、
那居波佐磨、魚之者也、上よ、
未迺於朋鷄句鳩、肉之多手也、

ハ、中書也、
居氣儂被惠祢、極而給惠祢也、
皇極紀の重誦、伊波能杯尔古佐墨渠梅野俱渠梅多你母多礙底騰哀羅羅歌
麻之能鳥賦万葉卷二、妻も有者採而多宜麻之佐美乃山野上乃宇波疑過
去計良受也、
音の響、
是謂來目歌今樂府矣、此歌者猶有手
量大小及音聲巨細、此古之遺式也、

或人の於書異之
と意斐志とを
伊斐の假多法則
ふさ就しとて
もあはれや

冬十月癸巳朔。天皇嘗其叢菟之根。勒
兵而出。先擊八十梟帥於國見。五破斬
之。是後也。天皇志存必克。乃為御謠之
曰。

伽牟伽筮能。伊齊能于淤。
神風之也。伊斐の力。詳如前。大石尔哉也。古事記ハ意斐志尔と

能。於費異之。珥夜。
伊斐之。海之也。伊斐の冠辭考。詳如前。大石尔哉也。古事記ハ意斐志尔と

紀伊國熊野の錦浦といふ所。勢の浦ハ。蘇丹敷戸部。その贊浦と云ふ。東北
ノ。慥良と云ふ郷あり。この名は山ノ。大和公吉野を越るを久あつと云ふ
されや須多岐の背の白と負。内つふ入と云ふ。り。たふたふと云ふ

異波臂茂等倍屢。
伊近纏也。古事記ハ。波比母登富呂布と何
教。も。た。通。へ。た。回。教。也。母登富呂布と。何。の。地。也。古事記景行の條。伊那賀良近波比
母登富呂布登許呂豆良と云ふ。指押示延纏解蔓と云ふ。も。あ。は。れ。や。あ。は。れ。や。

之多儂淤能。
小瀛子之
也。和名抄
云。雀兩錫食經云。小瀛子。細螺之太。美。類似甲贏而細小。口有白玉之蓋者也。可
葉卷十六。机之嶋能。小螺乎。伊拾持。乘而。と云。え。る。己。往。年。南。嶋。と。云。ふ。は。れ。
と。云。ふ。こ。の。大。に。と。云。ふ。之。多。大。布。之。陀。受。の。教。小。貝。の。名。を。云。ふ。は。れ。
着。て。後。ハ。の。之。多。大。と。度。高。と。云。ふ。は。れ。ハ。度。高。と。云。ふ。者。々。と。云。ふ。や。あ
屋。人。又。布。之。多。大。と。云。ふ。ハ。大。多。大。ハ。津。の。助。録。の。時。ハ。貝。の。名。
の。通。考。と。云。ふ。ハ。尚。可。考。の。大。ハ。俞。國。見。五。と。云。ふ。は。れ。河。の。名。ハ。國。見。の。五。の
ハ。十。梟。帥。と。打。ん。と。云。ふ。ハ。皇。軍。の。率。也。被。出。と。云。ふ。ハ。小。螺。の。名。也。と。云。ふ。
延。纏。と。云。ふ。ハ。伊。斐。と。云。ふ。也。は。れ。と。云。ふ。ハ。伊。斐。と。云。ふ。能。ハ。如。の。名。也。と。云。ふ。は。れ。

能也古言に
阿誤豫 吾兒與也。万葉卷十九。此吾子韓國邊遣。入唐大使清河をりて。詔へりて。愛み
志し。こを御言也。毛。准。こ。こ。も。臣。命。を。け。あ。その。率。を。久。米。邪。を。と。は。り。て。詔。を。大。御。法。の。下。流。撥。ハ。俗。の。い。ふ。け。と。與。那。列。の。
之多太溺能 如上。古事記。も。の。二。句。也。 異波比茂等倍離。
如上。于智互之夜莽務 撃而之將止也。中此之ハ。助語也。は。の。撃。ハ。首。を。打。敵。を。打。の。お。の。敵。斬。り。て。は。ま。す。つ。の。于。智。互。斬。殺。を。い。ふ。ま。と。い。ふ。し。將。止。と。大。赦。の。辞。を。岩。根。木。三。所。の。片。葉。毛。言。止。互。と。い。ふ。止。り。い。ふ。此。信。云。某。と。い。の。け。ん。と。い。の。け。と。際。を。べ。く。れ。と。い。の。止。ん。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
既而餘黨猶繁其情難測乃顧勅道臣

命汝宜帥大來目部作大室於忍坂邑
盛設宴饗誘虜而取之道臣命於是奉
密旨堰窳於忍坂而選我猛卒與虜雜
居陰期之曰酒酣之後吾則起歌汝等
聞吾歌聲則一時刺虜已而坐定酒行
虜不知我之有陰謀任情徑醉時道臣
命乃起而歌之曰 古事記ハ。故。尔。天。神。御。子。之。命。以。饗。賜。八十。膳。是。是。是。説。八十。膳。是。是。入。佩。刀。誨。
其膳是等白圍歌之者一時共斬
故明將打其土雲之歌曰

○古事記ハ又曰あり
加牟加是能云云の
の波よはげし

瀨都瀨都志註。如註。上註。俱梅能故羅餓註。如註。小者茂
等珥註。垣本也本。本主の堂をいふ。上よりいふ。如。万葉卷十四
填註。阿波多麻能。伎倍乃波也。之爾云云。と。阿波多麻能。城隔る。の
と。彼等の解よりいふ。金をいふ。于惠志破珥介瀨
所殖椒也。宇惠之也。今殖をいふ。言ふ。あ。殖有。をいふ。万葉卷三
春日。聖をいふ。殖。水葱とあ。殖。わ。波珥。波。上。をいふ。以。羅
と。蜀椒也。被。句致比珥俱。口疼也。椒と喰。和例破浣
輪例孺。我者不志也。是瀨命の薨る。於手。志。をいふ。恨。をいふ。
古事記。和須。于智互之夜。莽務註。如註。
因復縱兵忽攻之。允諸御謠皆謂來目

歌此的取歌者而名之也。

第五卷。御間城入彦五十瓊殖天皇。

六首。崇神天皇

八年夏四月庚子朔乙卯。以高橋邑人

活日為大神之掌酒云云。冬十二月丙

申朔乙卯。天皇以大田之根子令祭大

神是日活日舉神酒獻天皇仍歌之曰

○日本紀歌解上

○九

依久之口志久之口
の神酒も酒をりあふ
なりやうなり万葉
の紀よりとせん。

許能瀨枳破。此神酒者也。神酒ハ醸せし酒也。蘗(カ)酒(カ)神(カ)奉(カ)。
酒(カ)名(カ)也。美(カ)真(カ)酒(カ)美(カ)御(カ)酒(カ)の(カ)と(カ)。

糟粕(カ)酒(カ)の(カ)実(カ)とい(カ)ひ(カ)倍(カ)て。吾(カ)神(カ)の(カ)美(カ)の(カ)倍(カ)と。和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)。
篇(カ)云(カ)濁(カ)醜(カ)も(カ)呂(カ)美(カ)。汁(カ)滓(カ)酒(カ)也(カ)と(カ)る(カ)も。諸(カ)実(カ)の(カ)急(カ)法(カ)多(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)次(カ)下(カ)此(カ)。

和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。今(カ)れ(カ)何(カ)下(カ)り(カ)け(カ)。
酒(カ)の(カ)古(カ)名(カ)也。萬(カ)葉(カ)卷(カ)九(カ)。
酒(カ)の(カ)古(カ)名(カ)也。萬(カ)葉(カ)卷(カ)九(カ)。

和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。今(カ)れ(カ)何(カ)下(カ)り(カ)け(カ)。
酒(カ)の(カ)古(カ)名(カ)也。萬(カ)葉(カ)卷(カ)九(カ)。

大倭(カ)座(カ)也。大(カ)和(カ)國(カ)と(カ)す(カ)ま(カ)は(カ)し(カ)ら(カ)ず(カ)也。爾(カ)末(カ)の(カ)約(カ)那(カ)を(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。那(カ)殊(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。
又(カ)ハ(カ)大(カ)和(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。今(カ)れ(カ)何(カ)下(カ)り(カ)け(カ)。
酒(カ)の(カ)古(カ)名(カ)也。萬(カ)葉(カ)卷(カ)九(カ)。

能(カ)大(カ)物(カ)主(カ)之(カ)也。大(カ)巳(カ)貴(カ)命(カ)の(カ)三(カ)輪(カ)坐(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。御(カ)酒(カ)の(カ)名(カ)也。於(カ)朋(カ)望(カ)能(カ)農(カ)之(カ)。

瀨(カ)之(カ)枳(カ)積(カ)釀(カ)神(カ)酒(カ)也。和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。今(カ)れ(カ)何(カ)下(カ)り(カ)け(カ)。
酒(カ)の(カ)古(カ)名(カ)也。萬(カ)葉(カ)卷(カ)九(カ)。

伊(カ)句(カ)臂(カ)佐(カ)伊(カ)句(カ)臂(カ)佐(カ)の(カ)神(カ)也。天(カ)皇(カ)の(カ)御(カ)酒(カ)也。釀(カ)神(カ)酒(カ)也。和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。今(カ)れ(カ)何(カ)下(カ)り(カ)け(カ)。
酒(カ)の(カ)古(カ)名(カ)也。萬(カ)葉(カ)卷(カ)九(カ)。

活(カ)日(カ)掌(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。自(カ)ら(カ)名(カ)を(カ)稱(カ)す(カ)也。下(カ)の(カ)佐(カ)を(カ)語(カ)す(カ)也。神(カ)樂(カ)聲(カ)波(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。今(カ)れ(カ)何(カ)下(カ)り(カ)け(カ)。
酒(カ)の(カ)古(カ)名(カ)也。萬(カ)葉(カ)卷(カ)九(カ)。

如(カ)是(カ)活(カ)日(カ)如(カ)是(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。和(カ)名(カ)抄(カ)酒(カ)玉(カ)と(カ)り(カ)し(カ)る(カ)也。今(カ)れ(カ)何(カ)下(カ)り(カ)け(カ)。
酒(カ)の(カ)古(カ)名(カ)也。萬(カ)葉(カ)卷(カ)九(カ)。

如此歌之宴于神宮即宴竟之諸大夫

○聖德太子の神
名あり上。次の
○は神の酒よ
あまの。善喜祝詞
考。い。い。い。い。い。
○釀の。八。所。統。は。し。
も。決。り。し。し。考。
何。ん。と。也。

細川出齋の堀川書
肝野抄と云ふは、酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

三輪山の稱、古事記
よ、みよ、米、代、旧、時
といふ、の、みよ、と
いふ、みよ、といひ
上、代、の、代、の、代、
と考へ、然し。

等歌之曰

宇磨佐階 句 醕酒也。和名抄云。醕。音與杯同。漢語也。未醕也。と云ふは、
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

須惠維祈禱。同卷十三。五。十。串。立。神。酒。座。奉。神。主。部。之。云。云。と云ふは、
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

輪。古の醕酒を。醕。とて、神。主。とて、稱。する。美。八。糟。交。の。糟。といひ。輪。八。涌。り。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

今も酒造。その糟。醕。上。とて、涌。り。といひ。神。賀。詞。と。天。乃。醕。和。といひ。醕。とて、
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

諸。祝。も。い。故。醕。の。醕。酒。の。熟。せ。を。醕。和。とて、いひ。右。乃。祭。儀。の。つ。ち。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

ハ。あ。の。つ。ち。い。は。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。三。輪。山。の。稱。也。實。諸。の。名。の。ハ。と。い。は。ぬ。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

阿佐妬珥 毛 且戸尔毛也。且戸。阿。佐。妬。珥。毛。也。且。戸。尔。毛。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

伊第氏由々那 出而將性也。ゆゑとて、いほ。伊。第。氏。由。々。那。也。出。而。將。性。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

伊第氏由々那 出而將性也。ゆゑとて、いほ。伊。第。氏。由。々。那。也。出。而。將。性。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

伊第氏由々那 出而將性也。ゆゑとて、いほ。伊。第。氏。由。々。那。也。出。而。將。性。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

伊第氏由々那 出而將性也。ゆゑとて、いほ。伊。第。氏。由。々。那。也。出。而。將。性。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

伊第氏由々那 出而將性也。ゆゑとて、いほ。伊。第。氏。由。々。那。也。出。而。將。性。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

伊第氏由々那 出而將性也。ゆゑとて、いほ。伊。第。氏。由。々。那。也。出。而。將。性。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

伊第氏由々那 出而將性也。ゆゑとて、いほ。伊。第。氏。由。々。那。也。出。而。將。性。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

伊第氏由々那 出而將性也。ゆゑとて、いほ。伊。第。氏。由。々。那。也。出。而。將。性。也。
酒を、みよとのみ、昔
八米をかき作らるるの
實解、酒のめ、酒
酒をみよとて、味酒
のみわとて、みよ、
ゆゑとて、いほ。

等能渡塢註如上

即開神宮門而牽行之云云。

十年秋七月丙戌朔乙酉詔群卿曰導

民之本在於教化也今既禮神祇災害

皆耗然遠荒人等猶不受正朔是未習

王化耳其選群卿遣于四方令知朕意

九月丙戌朔甲午以大彥命遣北陸武

渟川別遣東海吉備津彥遣西道丹波

道主命遣丹波因以詔之曰若有不受

教者乃舉兵伐之既而共授印綬為將

軍壬子大彥命到於和珥坂上時有少

女歌之曰一云大彥命到山背平坂

赤磨紀句異利寐胡播椰御間城入彥者哉也崇神天皇

飲迺餓已之也天皇鳥塢志齊務

若雄略將為登也苦四方之國也農殊末句志羅珥

丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸

ゆくとらるる。志らふハ。志らばの在言。万葉卷二。卷九よま。白土と云。卷十三
ハ。白粉と云。卷十七。ハ。不飽。とらふに。の。後。伊勢物語。い
づかき。言者不得也。是武。比賣那素寐殊望。姫之
植安彦が。おの。帝位と。窺。比賣那素寐殊望。戯為
毛也。上の。雄々。に。姫の。阿の。切。那素寐
と。り。雄。と。四道將軍を。帝京を。那素寐
す。の。あ。知。め。於。於。朋。利。自大城門
か。の。姫の。遊。あ。也。宮城の
御門。の。あ。武。安。妻。吾。田。謀。夫。從
山。婦。從。大。坂。共。入。欲。襲。帝。京。の。古。事。記。垂。仁。條。曙。立。王。克。上。王。二。王。副
其。御。子。遣。時。自。那。良。戶。遇。路。者。今。本。賦。音。自。大。坂。亦。遇。路。者。唯。未。戸。腋。戸。之
吉。戸。ト。而。出。行。の。木。戸。ハ。降。石。葉。考。別。記。李。良。坂。の。東。山。城。の。木。津。の
里。へ。越。出。る。山。路。今。あ。り。也。と。大。城。戸。ハ。夫。從。山
背。と。り。大。坂。へ。越。る。山。門。と。も。い。は。れ。大。城。戸。ハ。夫。從。大。和
人。の。来。り。い。は。れ。大。坂。戸。ハ。葛。下。路。を。河。内。越。る。山。門。李。良。戸。ハ。今。歌
姫。越。と。い。は。れ。山。城。越。る。山。門。木。戸。ハ。真。土。山。を。越。り。紀。伊。國。へ。山。門。へ

て。木。の。門。へ。い。は。れ。今。按。と。す。于。何。伽。卑。氏。
已。の。老。い。ひ。と。今。按。と。す。窺。窺。而。也。神。代。紀。吾。弟。之。來。宣。以。善。心。乎。謂。當。有。奪。國。之。志。歟。夫。父母。既。仕。諸。子。
各。有。其。境。如。何。棄。置。當。就。之。國。而。敢。窺。窺。此。處。乎。と。窺。窺。ハ。文。選。の。窺。向。
云。謂。欲。有。篡。逆。之。心。也。と。今。の。意。也。石。葉。卷。八。此。岳。尔。小。牡。鹿。復。起。宇。
如。望。長。比。窺。窺。卷。十。窺。良。布。窺。下。疑。跡。見。山。雪。之。灼。然。云。云。鹿。と
殺。ひ。窺。窺。と。許。呂。佐。教。苔。將。殺。也。天。須
羅。向。鳩。志。羅。瑪。為。乎。不。知。也。羅。向。ハ。留。の。延。言。有。阿。良。久。戀。
比。賣。那。素。寐。須。望。如。上。註。古。事。記。の。考。
於。是。大。彦。命。異。之。問。童。女。曰。汝。言。何。辭。
對。曰。勿。言。也。唯。歌。耳。乃。重。詠。先。歌。忽。不

見矣。云云。

是後倭迹迹百襲姬命為大物主神之

妻然其神常晝不見而夜來矣云云時

大神有耻忽化人形謂其妻曰汝不忍

令羞吾吾還令羞汝仍踐大虚登于御

諸山爰倭迹々姬命仰見而悔之息居

則著撞陰而薨乃葬於大市故時人號

其墓謂箸墓是墓者日也人作夜也神

作故運大坂山石而造則自山至于墓

人民相踵以手迎傳而運焉時人歌之

曰

飲朋佐小珥大坂也此大坂山を葛下郡に相坂村あり大坂山口神社もそのあたりにあり

菟藝迺煩例屢繼所登也坂上まで石群の地はゆる也

伊辭務邏鳩石群也神代紀に五百箇磐石をゆついはむと別

乃湯都磐村乃湯都磐村あり村を木の竹むの

手越亦越者也手迎傳と固辭小氏務小茂將越得哉也万葉集

是謂思邦歌也

十八年秋七月辛卯朔甲午到筑紫後國御木居於高田行宮時有僵樹長九百七十丈焉百寮踏其樹而往來時人

歌曰

阿侏志毛能朝霜カ也私記曰朝霜易消也欲讀源概之卷語也
之消長戀師幾近の故概の下云
源概發語なり

能侏烏磨志真木之侏小橋也湖木の地名もこの木より

後葉卷廿二麻都能氣乃奈美多流美礼婆能ハ神の假字にて志なる

の侏也鳥也流云後葉卷廿二麻都能氣乃奈美多流美礼婆能ハ神の假字にて志なる

前就君也百寮の人等就ハ齋傳のづゝにて天白の

多羅秀暮神代紀の事誦源開能侏烏磨志如上

四十年夏六月、東夷多叛、邊境騷動。云云。於是日本武尊雄誥之曰、熊襲既平、未經幾年、今更東夷叛之、何日逮于大平矣。臣雖勞之、頓平其乱。云云。爰日本武尊則從上、總轉入陸奥國。云云。蝦夷既平、自日高見、國還之西南、歷常陸、至甲斐國、居于酒折宮。時舉燭而進食。是

夜以歌之問侍者曰

瑪比登利新墾也。筑波よか。新治今作路卷十。四ノ信濃道者伊麻能波里美知。あつた。考ま。

菟玖波塢須擬作壑。新治の作壑。あつた。考ま。

異玖用加祢菟流筑波乎過而也。和名抄。常陸國筑波郡。筑波とら。郷名もえ。その地を。筑波山。越すとほま。きと。過と。報を。異玖用加祢菟流。變夜飲寐有也。築波山。上。延へ。を。即い。見。

諸侍者不能答言。時有秉燭者。續王歌之末而歌曰。

加餓奈倍カガナベ。來經來經而也。來經ハ年月日夜の來經行とりつゝ
其來經を納むる。其來經ハ。萬葉卷三の氣並而

用珥波虛ヨシハヒ。能ノ用ヨ。於夜者ヨシハヒ。比珥波ヒヨシハヒ。於夜者ヨシハヒ。比珥波ヒヨシハヒ。

苔塙コケノエ加塙カノエ。於日者十日乎也。加ハ來經の。上より下りて。鳥ハ何

旋頭歌
形例。

即美兼燭人之聽而敦賞。

日本武尊於是始有痛身然稍起之還

於尾張爰不入宮黃媛之家便移伊勢

而到尾津昔日本武尊向東之歲停尾

津濱而進食是時解一劍置於松下遂

忘而去今至於此劍猶存故歌曰。

鳥波利珥トリハレ。尾張也。藤信景塩尻云。尾張國春日井郡小針村為國中
有尾張神社。蓋小墾之謂而為一國名也。云云。此說諸家の説

多陀珥勢タタトリ加弊流カヒル。蓋ハ所尚也。古
事記云。古

尾津神社二座と見え社地を戸津村のやまにあり。御衣野村。古松林今も
存す。一つねのゆやといひ。草薙何某といふもの。古松林今も存す。

阿波礼と阿勢袁とせしむるは雄略天皇の大御歌にも見えたり吾背も親うま言ふもの

比苔菟摩菟阿波例一松阿吟也万葉卷六上登活道同集一

吹風乃聲之清者年深香聞阿波礼と阿勢袁とせしむるは雄略天皇の大御歌にも見えたり吾背も親うま言ふもの

御歌にも見えたり吾背も親うま言ふもの

比苔阿利勢磨人亦有為者也人よ岐農岐勢摩

之鳩衣令着麻志乎也多智波開摩之鳩太刀令佩麻志乎也太刀佩せ

古事記ハ次の多智波開摩之鳩太刀令佩麻志乎也太刀佩せ

句と上下せしむる神樂歌ハ白銀の目貫の太刀と懸佩しとありて太刀と懸取

懸て垂しとのぬれぬ波久比登都麻都阿勢袁の一句は

比登都麻都阿勢袁の一句は

第九卷 氣長足姫尊 六首 神功皇后

攝政元年三月丙申朔庚子命武内宿

禰和珥臣祖武振熊率數萬衆令擊忍

熊王爰武内宿禰等選精兵從山背出

之至菟道以毛河北忍熊王出營欲戰

時有熊之疑者為忍熊王軍之先鋒則

令曰云云。忍熊王。知被欺。謂倉見別五
 十狹茅宿禰曰。吾既被欺。今無儲兵。豈
 可得戰乎。曳兵稍退。武內宿禰出精兵
 而追之。適遇于逢阪。以破。故號其處曰
 逢坂也。軍衆走之。及于狹々波栗林。而
 多斬。於是血流溢栗林。故惡是事。至于
 今。其栗林之藁。不進御所也。忍熊王逃
 無所入。則喚五十狹茅宿禰而歌曰。
古事記

ハ仲哀の傳る在て。於是其忍熊王與伊佐比宿禰
 共被追迫。乘船浮海。歌曰。海々湖水と云。

伊弉阿藝イサアギ 率吾君也。率ハ催辭。阿藝ハ阿勢阿誤ぬと云。同類の云
 伊佐智須區禰イサチスウクニ 五十狹茅宿禰也。すく禰ハ所統。少兒ぬ
 伊弉阿藝イサアギ 率吾君也。率ハ催辭。阿藝ハ阿勢阿誤ぬと云。同類の云
 伊佐智須區禰イサチスウクニ 五十狹茅宿禰也。すく禰ハ所統。少兒ぬ
 多摩枳婆屢タマキハル 如上。于智能阿曾餓カ 如上。句夫菟
 智能チノ 頭禰之也。禰武紀。伊多互於破孺破ハ 痛手不負者也
 珥倍迺利能ニホドリノ 痛手負へん
 珥倍迺利能ニホドリノ 痛手負へん

小豆岐齊奈潛將鳥也。せの。古云よせじりりや。法おほくせぬ。との信。古の沈る。下。和の一。云。信。を。潜將の。吾也。武内宿禰の痛。を。負。ん。よ。も。と。鵜。鷲。の。如。く。淡。海。の。海。に。溺。し。て。吾。の。死。ん。の。よ。も。と。痛。み。の。よ。も。と。今。も。も。負。ん。よ。も。と。お。の。れ。を。と。り。ひ。つ。疵。を。あ。ら。は。し。り。ひ。

則共沈瀨田濟而死于時武内宿禰

歌之曰

阿布瀨能瀨淡海三海也。淡海。軍。と。あ。り。つ。た。近。江。の。中。に。あ。る。海。と。り。の。よ。も。と。か。か。り。の。も。と。也。宇。瀨。の。宇。ハ。能。の。餘。韻。よ。

齊多能和多利珥瀨田之渡也。和名抄栗。伽豆區。本郡。勢多。と。り。え。ん。と。り。こ。と。

梅珥志瀨曳泥古利。潜鳥也。忍熊王の放。傳。聞。梅。珥。志。瀨。曳。泥。也。

異枳迺倍呂目尔志不見者也。志ハ。助。諸。の。屍。を。え。ぬ。能。は。し。り。の。異。枳。迺。倍。呂。也。爾。志。不。見。者。也。志。ハ。助。諸。の。屍。を。え。ぬ。能。は。し。り。の。異。枳。迺。倍。呂。也。

之茂慎呂之也。呂之ハ。極。も。極。も。と。り。あ。る。ひ。さ。か。り。や。り。中。に。用。い。た。語。格。も。慎。呂。を。用。い。た。い。信。也。下。は。も。ハ。助。諸。は。慎。息。滯。也。

於菟道河武内宿禰亦歌曰石葉十九。伊伎騰保流許々。呂能宇智乎思延。と。何。る。の。鬱。々。と。疑。滯。る。ん。也。死。と。え。ぬ。能。ハ。終。他。よ。か。り。や。り。と。疑。し。と。ん。の。胸。中。に。滯。り。て。を。り。ぬ。と。り。

於是探其屍而不得也然後數日之出

於菟道河武内宿禰亦歌曰

阿布瀨能瀨句齊多能和多利珥句小豆

區苔利以上三句。如上註。多那伽瀨須疑豆田上過而也。田上河。近。江。國。栗。本。郡。に。

て宇治川の源也。石葉卷一。藤原官之。磐若走淡海乃國之衣手能田上山之真木佐。昔檜乃孺手手物乃布能八十氏河尔玉藻成浮倍流礼とあるとて田上河宇治

河一、流をると
于旒珥等羅倍菟
於宇治捕都也。田上、一を流也。東をも。宇治川よおきて。

十三年春二月丁巳朔甲子命武内宿

禰從大子令拜角鹿筭飯大神癸酉大

子至自角鹿是日皇太后宴大子於大

殿皇太后舉觴以壽于大子因以歌曰

虛能涿企破此神酒者也。ミ和餓瀾企那邏儒非吾神酒也。あはれ云

區之能伽涿酒之神也。區之ハ酒の古名也。あはれ云

等虚豫珥伊麻輸常世亦座也。常世といふは古言といふは

伊破多々記傳といふと記をたに似れど。かほりまゝに。あはれ云

須岩立為也。延喜神名帳。能登國羽咋郡。大穴持像石神社。能登郡宿那彦

周玖那彌伽未能少脚神之也。少彦名神を稱せし。私記曰。少彦

等豫保枳神是送酒神也。今有其遺跡云。あはれ云

上... 故... 味酒... 糟湯酒... 仁番... 都々... 堅塩手取... 都々... 于輸珥多豆々... 酒を醸すも器々

○ 沢河の沢... 上... 沙...

下仁... 于多比菟々... 加彌鷄梅伽墓... 阿椰珥... 濃芝作沙... 于多娜

第十卷 譽田天皇 應神天皇

六年春二月天皇幸近江國至菟道野

上而歌之曰右事記云御立宇邊野上望萬野歌之曰とあり

知婆能千葉能也蔓よかよの發語所は冠辭考云云とあり

例磨葛野と見者也和名抄山城國葛野加止と云云

茂智儂蘆百煤無也延喜式大聚祭祝詞云天乃血岳飛鳥能禰無入

夜珥波登陀流天之新泉之凝烟之八拳無聲底燒舉而云云と云云

母弥喻家庭毛所見也庭と家の立並を平原地といふ云の

區珥能朋母弥喻國之秀毛所見也朋と神武紀云秀嬬國と

十一一年是歲有人奏之曰日向國有孃子名髮長媛即諸縣君牛諸井之女也

畧十三年春三月天皇遣專使以徵髮

利委餓羅斯

鳥居令枯也。上於人皆對一。鳥居といふは群を以て名づる也。

延太尔多乎理豆乎登女良尔都乃尔母夜里美之呂多倍能蕪泥尔毛古伎礼香
具播之美於伎豆可良之美云云とあるを、つゝ、ハ、礼と折取、も、ふと、あ、た、の、枝、を、折、し、と、い、ふ、事、也、

登々利加良斯、ハ、神、の、御、座、を、い、ひ、お、の、る、事、也、知るべし、ハ、神、を、比、等、未、那、等、利、と、比、

那伽菟曳能、ハ、粟、之、也、中、し、り、あ、か、れ、那伽菟曳能、ハ、豆、流、波、乃、布、之、麻、苗、

府保語茂利、ハ、會、隱、也、万、葉、卷、十、四、由、豆、流、波、乃、布、之、麻、苗、等伎尔、ハ、あ、ま、を、卷、廿、二、知、波、乃、奴、の、古、乃、豆、

加之波能保々麻禮等、ハ、保、と、有、と、あ、ま、を、さ、さ、の、深、窓、を、在、て、男、せ、加、ハ、あ、ま、を、保、と、有、と、あ、ま、を、さ、さ、の、深、窓、を、在、て、男、せ、

有中ふ布敷賣流ハ悉哉許母礼面、ハ、あ、ま、を、保、と、有、と、あ、ま、を、さ、さ、の、深、窓、を、在、て、男、せ、ハ、皆、男、女、れ、り、ハ、あ、ま、を、保、と、有、と、あ、ま、を、さ、さ、の、深、窓、を、在、て、男、せ、

續日本紀、天平八年十
月、漆、云、橘、者、第、一、之、
長、上、人、所、好、柯、漆、也、
葉、茂、葉、經、葉、暑、而、不、
凋、與、珠、玉、並、競、之、文、金、銀、
以、迎、美、云、云、其、文、金、銀、
と、い、ふ、ハ、橘、の、葉、は、金、銀、
の、如、く、光、輝、す、と、い、ふ、事、也、

御在難波宮之時歌七首、ハ、在、於、左、大、臣、橘、卿、之、宅、肆、宴、御、歌、并、奏、歌、也、御在難波宮之時歌七首、ハ、在、於、左、大、臣、橘、卿、之、宅、肆、宴、御、歌、并、奏、歌、也、

○高野記の事と能
しつ次ニ有る
る下流より入

彌豆多摩摩蘆 水滄也。他は水滄也。水滄地田の河原也。 豫佐弥能伊

戒珥 依網之池也。崇神紀六十二年冬十月造依網池也。名抄住吉郡大羅佐美。 池は住吉に與方

奴那波區 利 尊業給也。給は名抄に在り。 河内女の住居也。 紀伊

破陪鷄區 辭羅珥 紀伊 破陪鷄區 辭羅珥 紀伊 破陪鷄區 辭羅珥 紀伊

知也 延ハ長又そのを 延ハ長又そのを 延ハ長又そのを 延ハ長又そのを

串呂苗泉 爾將待跡隱活乃下延置而 延置而 延置而 延置而

延ハ長又そのを 延ハ長又そのを 延ハ長又そのを 延ハ長又そのを

上ノ章具 比宇知賀佐野神流野良乃二句あり 堀技打者 委遇比

菟區 堀技就也。就ハ加毛豆久三諸就のつくも。 延ハ長又そのを

毛都勢 芥久比表宇知 伊 伊 伊 伊 伊 伊 伊 伊 伊 伊 伊 伊

摩多曳能 河股江也。延喜神名帳。大和國高市郡河俣神社あり。 比辭鐵羅能

比辭鐵羅能 比辭鐵羅能 比辭鐵羅能 比辭鐵羅能 比辭鐵羅能

料はゆえのちあつても、まうみあつても、上ノも、下ノも、左ノも、右ノも、

新那使とあるハ、齒並の推の子。 菱の葉は白く、葉はもろく、如くも、

菱の葉は刺あつて、まうみあつても、佐辭と詠ん、まうみあつても、

佐辭鷄區 辭羅珥 差直久不也。 差ハ依佐之志の依志よて、

○日本紀歌解上

○四十七

○日本紀歌解上

○四十七

○古事記ハ伊夜汗
古云云の下伊麻叙
久夜野岐の一日也

阿餞許居呂辭吾心之也古事記ハ和我
伊夜于古珥辭互於の于に多し居ハハ
大鷓鴣尊與髮長媛既得交殷勤獨對ニウメヒムニハシ
髮長媛歌之曰ニウメヒムニハシ

淵知能之利

道後也前邊あるを其れ美新の久知其れ美新の久知
利也和名抄はるる日向を前邊なるれと東の國
の果を陸奥より敷く日向も西の極なるを志りより佳又古事
記に針向為道口より志るへ前邊なるを志りは是れ後といふ
のありと然

古波儂塙等綿塙

是ハ髮長媛をり也媛ハ日
向國諸縣君之女とあれ諸
縣郡して生長なるものべたれ也古波儂ハ諸縣郡の地名なりといへ
山城國ハ強田といひ久老世以上の説といひはるるありと
地帯のありと也といふ久老世以上の説といひはるるありと
後深津島山奥真經而云はるるハ吉備の道後也備後ハ深津島あり
ハもこれ也日向國ハ古波儂又西の極よりありはるるありと
打すか踏しては後といふむいひはるる和名抄とる久老野の出る
まはるる久老日向國古波儂といひはるるありと
かすはるる加へはるるありと今備後といふは淵知能之利
ハ海驢之教也神代紀海神宮の版鋪設海驢皮八重使坐其上と見え
を海神の愛意のあらはるるありと海驢の皮を敷置と見え

高臺望兄媛之船以歌曰

阿波旋辭摩淡路島也阿波の國への異椰敷多那イナヤフタナ

羅弭彌二並也その時彼の二阿豆枳辭摩小豆島也今瓊岐の

國生之條並より中より度會(同)也異椰敷多那羅弭如註の條の二豫呂辭豫呂

枳辭摩之魔宜島也儂伽多佐例誰令片去也

阿羅細之荒之也阿比弥吉備在妹手也今吉備の

免流慕能相見都流物也阿比弥吉備在妹手也今吉備の

五よ五よ阿比弥吉備在妹手也今吉備の

○度會(同)神(八)各
年(河)波(ま)り(り)
の(秋)と(加)る(り)

高臺望兄媛之船以歌曰
阿波旋辭摩 淡路島也阿波の國への
異椰敷多那 イナヤフタナ
羅弭 彌二並也その時彼の二
阿豆枳辭摩 小豆島也今瓊岐の
國生之條 並より中より度會(同)也
異椰敷多那羅弭 如註の條の二
豫呂辭 豫呂
枳辭摩之魔 宜島也
儂伽多佐例 誰令片去也
阿羅細之 荒之也
阿比弥 吉備在妹手也今吉備の
免流慕能 相見都流物也
五よ 五よ
阿比弥 吉備在妹手也今吉備の

三十一年秋八月詔群卿曰官船名栝

豆本と考ふ遊りしは其者のいしきやのあつと異なり大序也上は
所引古事記の冬本は其のあつと異なり大序也上は
也上景行紀の佐微那志志豆の
下註の佐微那志志豆の

古事記の八世歌仁徳の條あり云此之御世免寸河西有一高樹其樹
之影當朝日者速淡道島當夕日者越高安山故切其樹以作船甚捷行之船
也時号其船謂枯野故以此船且夕酌淡道嶋之寒泉獻大御水也茲船破壞
以燒鹽取其殘遺木作琴其音響七里余歌曰云云とありしは紀とその
傳いづく
吳船也

日本紀歌解規之落葉上卷 終

